

令和4年の熱中症による救急搬送状況

救急企画室

1 はじめに

消防庁では、平成20年度から全国の消防本部を調査対象として、熱中症による救急搬送人員を調査しています。

この度、令和4年5月から9月までの全国における熱中症による救急搬送状況を取りまとめましたので、その概要を報告します。

2 熱中症による救急搬送状況

① 救急搬送人員（表1）（図1）

令和4年5月から9月までの全国における熱中症による救急搬送人員の合計は71,029人でした。

これは、平成20年の調査開始以降、3番目に多い搬送人員となっており、昨年度同時期の救急搬送人員47,877人と比べると23,152人増となりました。

また、6月下旬から7月上旬の記録的な高温により、6月27日から7月3日までの週は、6月の調査を開始した平成22年以降、同時期で最も多い14,629人の方が搬送人員となりました。

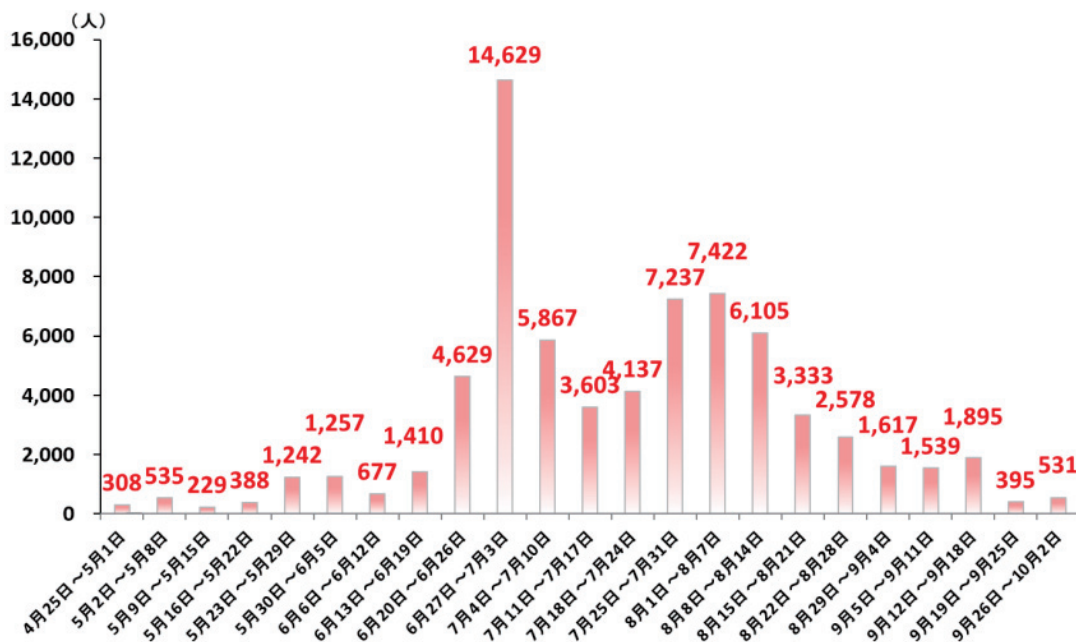
表1 熱中症による救急搬送状況（平成28年～令和4年）「救急搬送人員及び死亡者数（年別推移）」

（単位：人）

	令和4年(2022)		令和3年(2021)		令和2年(2020)		令和元年(2019)		平成30年(2018)		平成29年(2017)		平成28年(2016)		
	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	
確定値	5月	2,668	4	1,626	0	調査データなし	4,448	8	2,427	1	3,401	2	2,788	1	
	6月	15,969	19	4,945	7	6,336	8	4,151	5	5,269	5	3,481	1	3,558	3
	7月	27,209	36	21,372	47	8,388	18	16,431	25	54,220	133	26,702	31	18,671	29
	8月	20,252	19	17,579	23	43,060	81	36,755	78	30,410	20	17,302	14	21,383	24
	9月	4,931	2	2,355	3	7,085	5	9,532	10	2,811	1	2,098	0	4,012	2
救急搬送人員 (5月から9月)	71,029	80	47,877	80	64,869	118	71,317	126	95,137	160	52,984	48	50,412	59	

※令和2年の調査期間は6月から9月である。

図1 熱中症による救急搬送状況（令和4年）「調査開始から各週の比較」



② 年齢区分別搬送人員 (表2) (図2)

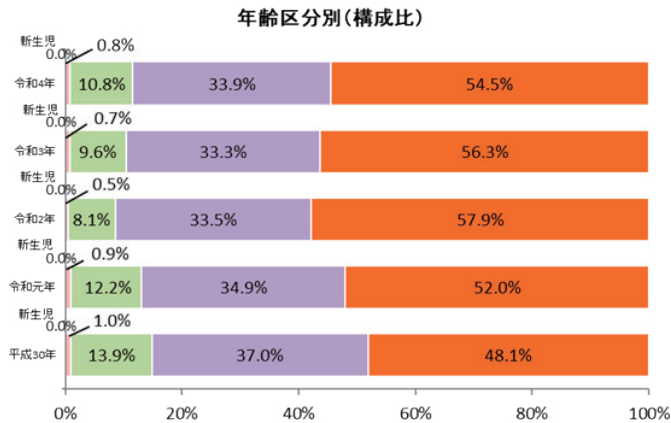
年齢区分別で見ると、高齢者が38,725人 (54.5%) で

最も多く、次いで成人24,100人 (33.9%)、少年7,636人 (10.8%)、乳幼児566人 (0.8%) の順となりました。

熱中症による救急搬送状況 (平成30年～令和4年)

表2

図2 年齢区分別 (構成比)



※端数処理 (四捨五入) のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

	年齢区分別 (人)					合計
	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	
令和4年	2	566	7,636	24,100	38,725	71,029
令和3年	7	359	4,610	15,959	26,942	47,877
令和2年	3	329	5,253	21,756	37,528	64,869
令和元年	1	634	8,707	24,884	37,091	71,317
平成30年	8	967	13,192	35,189	45,781	95,137



③ 傷病程度別搬送人員 (表3) (図3)

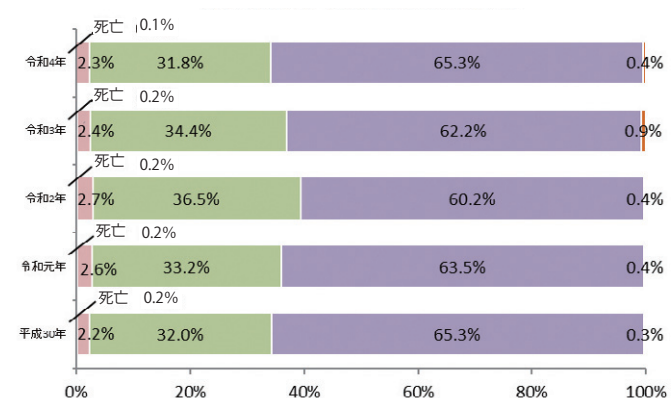
初診時における傷病程度別で見ると、軽症が46,411人

(65.3%) で最も多く、次いで中等症22,586人 (31.8%)、重症1,633人 (2.3%)、死亡80人 (0.1%) の順となりました。

熱中症による救急搬送状況 (平成30年～令和4年)

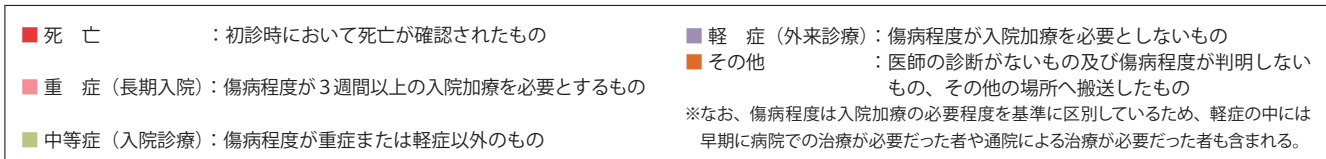
表3

図3 初診時における傷病程度別 (構成比)



	初診時における傷病程度別 (人)					合計
	死亡	重症	中等症	軽症	その他	
令和4年	80	1,633	22,586	46,411	319	71,029
令和3年	80	1,143	16,463	29,758	433	47,877
令和2年	112	1,783	23,662	39,037	275	64,869
令和元年	126	1,889	23,701	45,285	316	71,317
平成30年	160	2,061	30,435	62,158	323	95,137

※端数処理 (四捨五入) のため、割合の合計は100%にならない場合があります。



④ 発生場所別救急搬送人員 (表4) (図4)

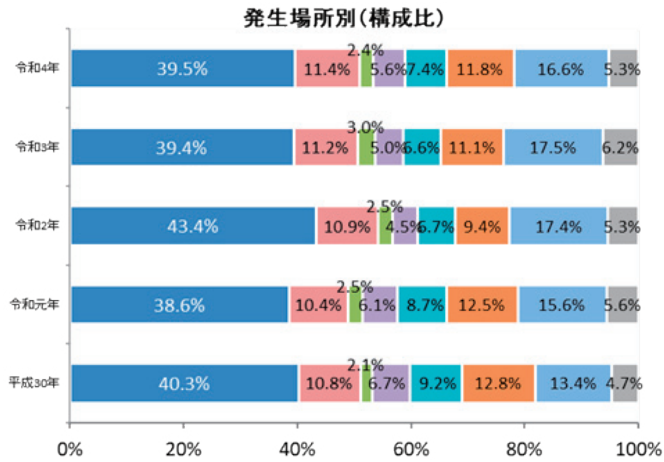
発生場所別で見ると、住居が28,064人 (39.5%) で最も

多く、次いで道路11,807人 (16.6%)、公衆 (屋外) 8,368人 (11.8%)、仕事場①8,127人 (11.4%) の順となりました。

熱中症による救急搬送状況 (平成30年～令和4年)

表4

図4 発生場所別 (構成比)



	発生場所別 (人)								合計
	住居	仕事場①	仕事場②	教育機関	公衆 (屋内)	公衆 (屋外)	道路	その他	
令和4年	28,064	8,127	1,690	3,975	5,248	8,368	11,807	3,750	71,029
	39.5%	11.4%	2.4%	5.6%	7.4%	11.8%	16.6%	5.3%	100%
令和3年	18,882	5,369	1,421	2,404	3,172	5,298	8,378	2,953	47,877
	39.4%	11.2%	3.0%	5.0%	6.6%	11.1%	17.5%	6.2%	100%
令和2年	28,121	7,065	1,599	2,901	4,340	6,130	11,276	3,437	64,869
	43.4%	10.9%	2.5%	4.5%	6.7%	9.4%	17.4%	5.3%	100%
令和元年	27,500	7,403	1,792	4,369	6,213	8,944	11,137	3,959	71,317
	38.6%	10.4%	2.5%	6.1%	8.7%	12.5%	15.6%	5.6%	100%
平成30年	38,366	10,279	1,980	6,333	8,712	12,185	12,774	4,508	95,137
	40.3%	10.8%	2.1%	6.7%	9.2%	12.8%	13.4%	4.7%	100%

※端数処理 (四捨五入) のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

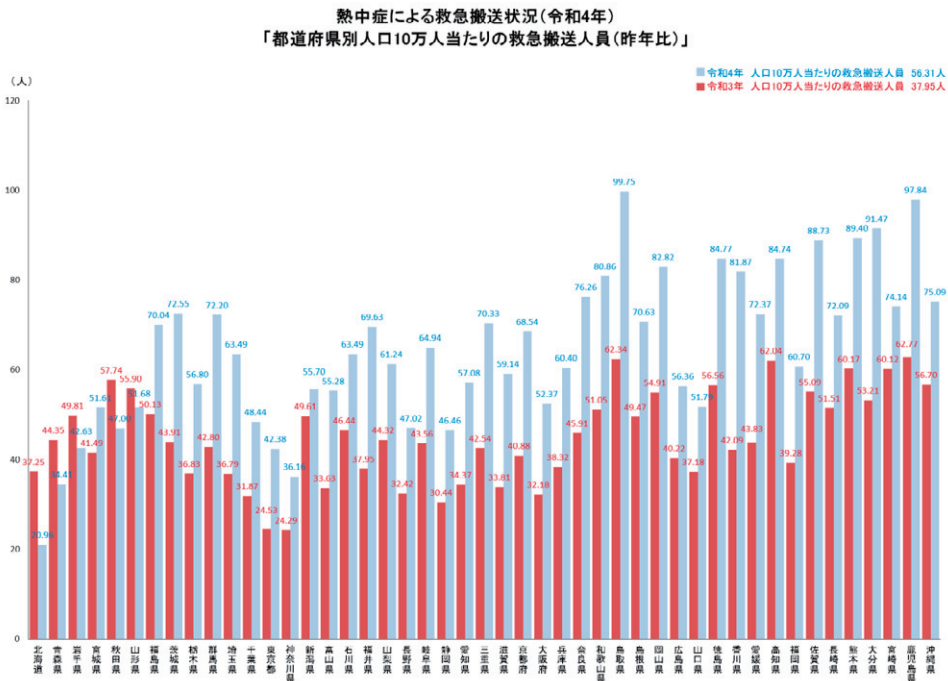
- 住居 (敷地内全ての場所を含む)
- 仕事場① (道路工事現場、工場、作業所等)
- 仕事場② (田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ)
- 教育機関 (幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等)
- 公衆 (屋内) 不特定者が出入りする場所の屋内部分 (劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅 (地下ホーム) 等)
- 公衆 (屋外) 不特定者が出入りする場所の屋外部分 (競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅 (屋外ホーム) 等)
- 道路 (一般道路、歩道、有料道路、高速道路等)
- その他 (上記に該当しない項目)

⑤ 都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員 (図5)

都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員で見ると、鳥取

県が最も多く99.75人であり、次いで鹿児島県97.84人、大分県91.47人、熊本県89.40人、佐賀県88.73人の順となりました。

図5 熱中症による救急搬送状況 (令和4年) 「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員」



3 消防庁の取組

消防庁では、熱中症予防啓発として、従来から熱中症による救急搬送人員の調査と公表、「リーフレット」や「ポスター」の作成、消防庁ホームページやツイッターによる情報発信などを通じ、住民の皆様幅広く注意喚起を図るとともに、全国の消防本部が行う予防啓発活動を支援してきました。

今年度は、新たに、SNSや街中のデジタルサイネージによる情報発信などを想定した短時間の予防啓発動画を作成し、消防庁ホームページで公開するとともに、作成した動画を多くの方にご覧いただくために、QRコードを記載した熱中症予防啓発ポスターを作成し、全国の消防本部へ配布しました。

4 おわりに

今年度の熱中症による救急搬送人員のデータを、熱中症情報サイトで公表しましたので、御活用ください。消防庁では、今後も関係省庁と連携をとりながら、熱中症に関する注意喚起や情報提供を行ってまいります。

消防庁熱中症情報（予防啓発コンテンツも掲載しています）
http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

問合わせ先

消防庁救急企画室
TEL: 03-5253-7529